

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200077		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	千葉県松戸市六実1-47-2		
自己評価作成日	平成21年12月4日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/">http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成21年12月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは所属する法人ケアネット徳洲会の理念のもとに「生命を安心して預けられるホーム。健康と生活を守るホーム」とするむつみ独自の理念を策定している。運営するために5つの実行方法を作成している。その5つは、1.お一人お一人のなじみの生活を大切にしてい 2.出来る事を、やりたい事を応援する 3.地域に愛されるホーム 4.家族に信頼されるホーム 5.介護の知識・技術・態度の向上に絶えず努力する である。  
事業所が特に力を入れていることは、家庭的な雰囲気の中で残された機能を活かし、その人らしさを保ちつつ、自己実現を図る。入居者様、職員共に笑顔を絶やさない である。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは所属する法人の理念のもと、独自の理念をつくり運営を行っている。更に其の理念の実現の為に5つの実行方法を定め、施設長を中心に職員一丸となり、毎日の業務に邁進している。町内会には開設より加入し、町内会・ホームの多くの行事に相互に参加するなど、地域に奉仕する仕組みを定めている。地域住民との交流も多く、開設3年にして地域密着度は高い。  
又、ホームの広い敷地内に畑や花壇があり、利用者の活躍の場となっている。ウッドデッキは手軽に外気に触れられる心地よい空間となっている。リビングは明るく清潔に保たれており、ゆったりとして落ち着きがある。利用者・家族もホーム全体の運営に高い評価をしている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング終了時参加者全員で理念の唱和を実施している。	理念は「生命を安心して預けられるホーム。健康と生活を守るホーム」である。この理念を実践するため5つの理念の実行方法を作成、職員は理念と実行方法の両方を毎朝の朝礼で唱和し共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として回覧板を回して交流している	町内会の一員として花見や盆踊り、文化展等の行事に参加したり、ホームの納涼祭に来ていただくなどしている。ホームが取り組んでいる愛のエコキャップ運動には町内会も参加し、協働している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方たちと茶話会形式で認知症予防についての話を計画中(2月頃)		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月ごとに運営推進会議を実施し活動報告を行っている。	会議は2～3ヶ月毎に開催している。メンバーは町内会長、民生委員、包括支援センター職員、利用者代表、病院看護部長、事業者で構成している。議題は活動報告の他に困っていること、災害時における避難対策などである。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の高齢者福祉課による集団指導に参加し介護保健加算質問に外向き直接指導を受けている。	市役所の担当課とは施設運営に係わる課題について相談をしたり、生活保護者を受け入れるなどして関係は密に行っている。又、介護相談員は月1回訪問をし、利用者の相談にのっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。離れホームの厳しい方の見守りで、玄関のみ電子錠です。	身体拘束をしない事を理念で定めており、全職員は其の理解のもと実践している。只、特定の人の見守りもあり、安全のため玄関のみ電子錠としている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修による学びと普及教育。管理者及び職員の自己評価実施で共有。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	松戸市主催の教育に参加し職場における伝達教育を実施。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会での説明と参加できない方に個別の説明会を設けて理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にチャンスを生かしてご意見を伺う。ケース会議で話し合い反映させている。	職員は納涼祭とクリスマス会時に開催する家族会や電話等で利用者・家族の意見を収集している。その内容は朝のミーティングでの意見交換の場や会議で検討し、サービスに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議で意見交換を行い、提案等を討議し反映させている。	運営に関する職員の意見や提案は、毎月行われる全体会議及びケース会議で意見交換を行い、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接などを実施し、意見を聞くようにして改善できるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を案内し、研修を受けられるように勤務時間調整をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間の交流を実施し、勉強会に参加したり相互訪問により得たものを生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に温かく見守りながら職員や入居者様、場所に慣れていただくよう努力する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の度に困ったことはないか、疑問点はないか意見を伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の見守りの中から又、家族の面会時に困っていることをアセスメントし何が必要か見極める。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしている仲間として一緒に台所に立ち同じ食事を食べながら掃除なども共に行い、生活観を味わってもらう。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面接時の家族の要望等を把握し、入居者様を共に支える立場として関係を築いてゆく。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人を面会を温かく迎えている。再び訪ねたいと思っていただくようにしている。	職員は家族が相談しやすい雰囲気づくりや、利用者の知人、友人がゆっくり面会できるよう努めている。また散歩時には近隣の商店や近所の住民とも声を掛け合っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で仲良く助け合って過ごしていただけるよう、見守りながら援助してゆく努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて自宅に帰られた方や他の介護施設に移られた方の面会や様子伺い等を実施している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お1人おひとりのご希望を取り入れどのように支援してゆけばご希望が叶うか、ケース会議やミーティングで話し合う。	職員は利用者の見守り時や家族の面会時に希望や意向を把握している。また利用者毎に担当職員を決め、センター方式のアセスメント票を使用して利用者の生活史や状況を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のことを良くご存知の家族に入居時に伺うこと。居宅のケアマネジャーや診療情報などにより、話し合う。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を見守り、夜間の様子を朝申し送りで把握するようにする。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランについて、受け持ち職員とご家族を交えて検討してチームで展開してゆく。	計画作成担当者や居室担当職員は利用者の介護計画についてモニタリングしている。さらに利用者、家族の希望をもとに個別の課題についてユニット全職員で検討し介護計画を更新している。	介護計画は利用者家族の意向や希望を基にチームで作成されているが、更新時に評価の記録は必要と考えられる。ケア会議等での検討をお願いしたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護の実際をケース記録に記入し、申し送りミーティングで意見交換して行く。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージを希望される方に対して、医師の許可を得て訪問マッサージのサービスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化展などに作品を発表させていただく機会を得ている。地域の消防署の教育訓練を受ける。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医が毎月2回の診察に訪ねていただき、急変時も電話の対応ですぐに往診していただける。	ホームでは利用者、家族の納得のもとに協力医が月2回往診しており、急変時や入院が必要な時には直ぐ対応できる連携体制がある。また希望により毎週、歯科の往診が可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、朝夕お1人おひとりの健康チェックをしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じグループの総合病院に依頼し、急変時の入院受け入れ等スムーズにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成21年4月に終末期の看取りについて家族会で同意を得て、5月から見取り加算を頂いている。自己学習と職員全員で医師から教育を受けた。	ホームは「看取りの指針」を作成し、利用者家族の同意により今年度5月より看取り加算を付けている。全職員は看取りの介護について医師から研修を受け、看護師である施設長を中心に積極的に取り組もうとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の救命処置訓練を受け、会議の中でお互いに意見交換をい、実践力を養う努力をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度交代で訓練を実施し、夜間も今まで2回実施している。地域との協力体制は一部可能である。全体としてはこれから実施してゆく予定。	職員は消防署の指導の下、2階からの避難訓練や実際にベッドから利用者を避難させる夜間訓練を実施した。また町内会の協力を得るため様々な働きかけを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お1人おひとりの良さを発見して、その方全てを受け入れて、その方にあった対応を心がけるよう努力している。	職員は利用者と共にその日着る服を選んだり、おしゃれを楽しめる等、利用者の思いに沿うよう努力している。またトイレにはシャワーが設置されており、排泄の失敗をさりげなく支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マイペースで自由に過ごされ、毎日の生活の中で意見を聞きながら希望に沿うよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中でお1人おひとりのやりたい事、できる事を伺いながら過ごしていただくようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着られる服を一緒に選んだり、女性には口紅やマニキュアをつけたり、男性はいつも髻剃りを行い、訪問美容も2ヶ月に1回ある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に台所で野菜を洗ったり、刻んだり、楽しみながら調理をしていただく。車椅子の方もひざのいう絵で人参の皮むきをしていただく。	職員は利用者と共に調理をする中でコミュニケーションを大切にしている。また利用者は食事の配膳や片付けなどできる範囲で共に行なっている。年、2回ほどの外食は利用者の楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お1人おひとり食べる量や水分量栄養バランス体重の増減などに配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをその方に応じて援助している。訪問歯科に依頼して治療の必要な方をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お1人おひとりの排泄状況に応じて支援している。プライバシーを守り、トイレで排泄できるようにチームで援助している。ふらふらする方は室内のポータブルトイレで実施。	職員は基本的には利用者が「トイレで排泄するのが当たり前」と考え、排泄の支援に力を注いでいる。その結果おむつを使用する利用者はほとんど無く、パッド程度である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをチームで行い、摂取量と排便雄関係性、水分量、便秘の場合腹部マッサージや医師による緩下剤の使用を相談している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴を楽しみにしておられる。午前中の中入浴を楽しみにしておられる。現在午前中入浴。	利用者は週3回午前中に入浴をしている。入浴したがない利用者には声かけの工夫や入浴の順番を変えるなどで対応している。	ホームは午後のアクティビティーの時間確保として午前中の中入浴を実施しているが、利用者の入浴時間への希望を把握し、対応について必要であれば検討いただきたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は2人の夜勤者が各ユニットを責任持って巡回しながら、子持ち良く眠れる援助をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員がお1人おひとりの使用している薬の用法、用量を把握し、服薬の支援を見守りながら実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お1人おひとりのできる事ややりたいことをチームで把握し、話し合いながら実施に移してゆくようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時は昼食後毎日のように散歩に出かけるように支援している。時々友人、家族の支援を受けて実施している。	日常的には午後、近所への散歩を行っている。また近くのショッピングモールへの買い物は利用者の楽しみとなっており、時々出かけている。季節に合わせて遠出することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は管理者がおこずかいとして預かり、診療費なども支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話やかかってきた電話を取りつくようにしている、		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除と手すりなどの消毒、毎日1回のワックス掛けなど室内、廊下の美化に心がけ、庭に咲いた花など居室やリビングに活けている。	ホームには広い敷地内に畑や花壇があり、利用者の活躍の場となっている。ウッドデッキは手軽に外気に触れられる心地よい空間であり、リビングは明るく清潔で壁には職員と合同で制作された作品が彩られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居されて3年が経過し気のあった利用者同士の交流も見られ、ほのぼのとしたものを感じている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室における家具など好みに応じてレイアウトし家庭で過ごされた時と同じように居心地の良いものとする。	全居室は南に面しており、明るく日当たりが良い。利用者はできる範囲で自室の掃除するなど清潔が保たれており、馴染んだ家具や仏壇が持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の場でお1人おひとりが自由にのんびりと生活できるように温かく見守り、残りの人生の自己実現が出来るような援助をする。		